

## あとがき

澤井が寝屋川に深い関わりをもつようになったのは、摂南大学に赴任して数年を経てからである。それまでは、遠くから眺めていて治水の面からも環境の面からも魅力のない川というイメージをもっていたが、そこにどっぷり浸かって付き合ってみると、魅力的な川であり、今では大好きになっている。その大きなきっかけとなったのは、2001年に寝屋川市の市制50周年を機に始まった「寝屋川再生ワークショップ」である。もうひとつのきっかけは、2002年に国の都市再生プロジェクトの一環として進められた、寝屋川流域水循環系再生構想検討委員会を機に発足した「寝屋川流域ネットワーク」である。ここで、土永らが深く関わってきた恩智川をはじめとする寝屋川流域南部の川と、澤井らが深く関わってきた寝屋川流域北部の川とをつなぐ市民活動が始まった。

特に寝屋川再生ワークショップでは、市民と行政と大学の協働のあり方について、よい勉強をさせていただいた。お蔭で、寝屋川は全国的に注目されるようになり、数々の表彰も受けてきた。この動きがさらに流域全体に波及し、ますます魅力的な水辺環境が整っていくことを期待している。

(公社)日本水環境学会関西支部川部会 / 土永恒彌・澤井健二

## 参考文献

- ・大阪府ホームページ <http://www.pref.osaka.lg.jp/ne/kouji/hokubu.html>
- ・澤井健二(2005) 関西の川歩き 寝屋川北部—市民と行政の協働で進む水辺再生—, 環境技術, Vol.34, No.2, 71-73.

## 既刊の紹介

- ・源流を行く編 『名張川』(2013) 『木津川上流』(2013) 『高時川・余呉湖』(2014) 『桂川・由良川源流』(2014)
- ・おうみの川編 『赤野井湾と流入河川』(2013)
- ・みやびな川編 『白川』(2010) 『鴨川・明神川』(2012) 『琵琶湖疏水』(2013) 『京の川』(2014) 『高野川』(2015)
- ・歴史とロマンの川編 『瀬田川・宇治川』(2010) 『保津川・桂川』(2011) 『茶川』(2011) 『猪名川』(2013) 『天野川』(2015)
- ・なにわの川・庶民の川編 『東横堀川・道頓堀川』(2011) 『恩智川・生駒の川』(2012) 『中河内の川』(2013) 『大川と大阪市内河川』(2013)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構  
〈企画編集〉(公社)日本水環境学会関西支部川部会  
(一社)近畿建設協会

### 琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

～ちょっと大人の散策ブック～ 〈なにわの川・庶民の川〉

#### 寝屋川 (Neyagawa)

〔発行〕平成27年3月

〔発行者〕公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構  
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (大手前センタービル4F)  
TEL. 06(6920)3035 FAX. 06(6920)3036  
<ホームページ> <http://www.byq.or.jp/>  
\*散策ブックはホームページ上で閲覧することができます\*

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構では、寄付への協力・賛助会員のご入会をお願いしております。戴いた会費・寄付金は、当機構を通じ琵琶湖・淀川流域の水質保全に活かされます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

# 琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

～ちょっと大人の散策ブック～

なにわの川・庶民の川 編

## 寝屋川

(Neyagawa)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構  
(公社)日本水環境学会関西支部川部会  
(一社)近畿建設協会



## 「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構と(公社)日本水環境学会関西支部川部会、(一社)近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、「源流を行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、それぞれ5、6リーフレットからなる。本リーフレットでは、「なにわの川・庶民の川」編として、寝屋川および淀川左岸の支川をとりあげた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

## 1 寝屋川の概要

寝屋川は、交野市星田山(標高278m)に源を発し、寝屋川市、四条畷市、大東市、東大阪市を経て、大阪市京橋口で淀川の派川である大川(旧淀川)に合流する大阪府下有数の一級河川である。恩智川が合流する住道付近から下流は感潮区間となっている。

かつての寝屋川は「野崎詣りは屋形船で」と歌われたように、田園地帯を流れるのどかな景観を呈していたようであるが、戦後急速に都市化が進み、特に1972年に谷田川と鍋田川で発生した大東水害以後は、かみそり堤と呼ばれる薄い板状の堤防で川と街が仕切られ、水辺の景観といえば、コンクリートと矢板の他は高い垂直壁に垂らされたツタがわずかに潤いを感じさせるのみとなっていた。

この水害以後、寝屋川の上中流域にはいくつもの調節池や治水緑地が設置され、現在さらに地下河川が整備されつつ

ある。流域の北西部には淀川が流れており、寝屋川市の木屋地先で農業用水が取水され、枚方市、寝屋川市、門真市、守口市の農地を潤した後、支川の古川や寝屋川に排水されている。

寝屋川の水質は、以前急激な都市化・工業化により極端に悪化し、その浄化のために淀川からの農業用水取水地点のすぐ近くから導水路が掘られ、淀川の水量が多い時には桜木町地先で浄化用水として寝屋川本川へ揚水されている。逆に寝屋川の水量が多く洪水の危険がある時には、この導水路を利用して寝屋川の水を太閤ポンプ場へ導き、淀川本川へ排水するようになっている。さらに現在では枚方市にあるなぎさ水みらいセンターの処理水が地下を通して桜木橋地先で寝屋川に放流されるようになり、寝屋川本川の水量が常時確保されるようになった。

この寝屋川で、ここ10年のあいだに一部の区間ではあるが親水整備が進み、市民の憩いの場と生物環境の回復が図られている。



寝屋川流域図



### 目次

ねらい・目次	
寝屋川の概要	02
寝屋川源流・上流ゾーン	03
コラム1 寝屋川の治水	05
コラム2 寝屋川の水利用	08
寝屋川中流・下流ゾーン	09
コラム3 寝屋川の水質	11
コラム4 寝屋川の市民活動	14

### CONTENTS



## 2 寝屋川源流・上流ゾーン

寝屋川の源流は、交野市の**星田山**(標高278m)である。星田山にはいくつかの登り口があるが、交通の便が良いのはJR学研都市線東寝屋川駅を起点とするルートである。駅前を東に進むとまもなく**吉野池**、**中池**というため池が並んでいるが、その南側に石の宝殿古墳で知られる**高良神社**(打上神社ともいう)がある。その東にある**久保池**を過ぎると交野市に入り、山裾に**星田新池**という大きなため池がある。ここから奥が寝屋川の源流部で、**地獄谷**、**聖の滝**を経て、星田山の山頂に至る。ここから**拂底谷**を下って星田新池から出る水路沿いに北へ進むと、**傍示川**という谷川に出会う。この川のすぐ上流では、南星台ホタルの里まちづくり委員会によって、ゲンジボタルの住むビオトープ作りがなされている。

傍示川の両側には、星田新池のほかに、**大谷新池**、**大池**などのため池が並ぶが、川沿いに北西方



星田山



傍示川のホタル再生地



星田新池



寝屋長者屋敷跡



鉢かづき姫



寝屋神社



打上川治水緑地



細屋神社

向に下り、JR学研都市線星田駅の南西を通って寝屋川市に入ると、川の名前は**タチ川**となる。そのすぐ北側に、鉢かづき姫の生家で、寝屋の地名の由来となった**寝屋長者屋敷跡**がある。鉢かづき姫は寝屋川市のマスコットキャラクターで、街の方々にそれをあしらった物が見られるが、その伝説には淀川の流れが深く関わっている。長者屋敷のあった街道は**山根街道**と呼ばれ、旅人が宿泊したことから寝屋と呼ばれるようになった。そこから約500m西、第二京阪道路寝屋川北インターのすぐわきに**寝屋神社**があり、境内摂社に水や雨をつかさどる神が祀られている。さらに500m西に行くと、寝屋交差点の近くで北東から**北谷川**が合流し、川は大きく南西方向に向きを変えたとともに、川の名前は**寝屋川**となる。

そこから約1km西で南東から**打上川**が合流するが、打上川の上流には大阪市水道局の**豊野浄水場**、さらに上流には大阪府営寝屋川公園の緑地が広がっている。そのすぐ南にはJR学研都市線東寝屋川駅があり、その南は**讃良川**の源流となっている。豊野浄水場の西方には、山新池と大谷池が並び、サギなど野鳥の生息地となっている。そのすぐ南の高宮廃寺跡付近には、ヘイケボタルが生息している。

寝屋川と打上川の合流点直上流には、**打上川治水緑地**がある。これは洪水時に寝屋川と打上川の流量を調整するために大阪府が設けたもので、普段は寝屋川市民の憩いの場として賑わっている。治水緑地上流端の北側にある**三井団地**の調節池にもヘイケボタルが生息している。寝屋川と治水緑地の間には**細屋神社**があり、境内の木を切ったり近くの小川の魚をとると腹が痛くなるという言い伝えがあるが、地元の**秦・太秦**の人々だけは



別だと言われている。

治水緑地の直下流には2013年に**川勝水辺ひろば**がオープンした。寝屋川上流部の川幅は概ね10m程度であるが、ここだけは約3倍の川幅があり、その左岸近くに、治水緑地からの放水渠が埋められている。整備前から河川敷は広がったものの、急勾配の護岸と転落防止柵に阻まれて河床に降りることができなかったが、整備後は階段やスロープ沿いに河床まで降りられるようになり、河川敷の散策道も設けられた。濡筋には極力護岸を施さず、自然にエコトーンが形成されるのを期待している。水辺ひろばの下流端には大きな落差工があるが、上流側に魚道が設置された。

その約500m下流には、2009年に河川と一体となった**幸町公園**が整備されている。ここも川幅約



川勝水辺ひろば



落差工上流側の魚道



幸町公園



成田山不動尊



2つの水門



ポンプ場(右)と下水処理水の放流口(左)



水生生物センター

10mで直立に近い護岸と転落防止柵に阻まれていたが、兩岸にあった公務員宿舎の高層化に伴って河川敷が約2倍に広げられ、階段やスロープで河床に降りられるようになるとともに、ワンドも造成された。また、近くにあった児童公園が川沿いに移設され、川と一体になった公園として賑わっている。

そのすぐ下流で南前川が合流する。南前川の上流には交通安全祈願で名高い**成田山不動尊**があり、奥の院には行場の滝がある。

南前川を合流した後、寝屋川が大きく迂回して南に向きを変えるところで、川は2俣に分かれ、それぞれに水門がつけられている。普段は、南へ向かう寝屋川本川のゲートが開けられ、北西に向かう水路のゲートは閉じられているが、洪水時には逆に寝屋川本川のゲートは閉じられ、北西に向かう水路のゲートが開けられて、寝屋川の水は、**寝屋川浄化導水路**を通じて、約1km下流の**太間排水機場**から**淀川**へ排水される。

この導水路は、元は寝屋川下流の水を浄化するために掘られたものであり、太間から導水した水を、桜木町の**寝屋川浄化ポンプ場**で揚水して寝屋川へ放流している。また、その放流口のすぐ下流に別の放流口があり、常時水が寝屋川本川へ流出しているが、これは、枚方市にある**なぎさみらいセンター**からの処理水である。処理水は若干カルキ臭が漂うが、寝屋川の中・下流部にとっては、安定した貴重な水源となっている。

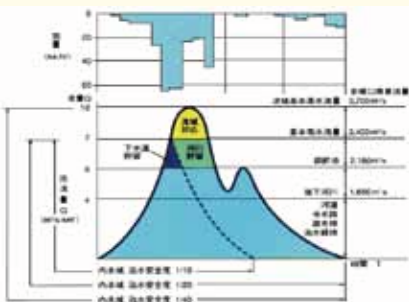
太間排水機場のすぐ北側に大阪府の**水生生物センター**がある。その北隣に、**木屋揚水機場**があり、淀川の水を農業用水として汲み上げている。この水はすぐ横の**淀川左岸幹線水路**を通じて、北は枚方市、南は寝屋川市、守口市まで配られてい

## コラム① 寝屋川の治水

寝屋川流域の災害と言えば、1972年の大東水害が有名である。この水害では、被害を受けた住民が、被害の原因は1級河川谷田川の治水に瑕疵があったためであるとして、国、大阪府、大東市を被告として提訴した。訴訟は最高裁まで争われ、1984年に最高裁判所は同種・同規模の河川の一般的水準及び社会的通念に照らして安全性を備えていると認められているかどうかを判断基準として、改修計画が進んでいない河川については、その計画に不合理な点がなく、後に変更すべき特段の事情が発生しない限り、未改修の部分で水害が発生しても、河川管理者たる国には損害を賠償する責任はないと判決した。

この水害後、大阪府では総合治水計画を策定し流域基本高水流量を2,700m<sup>3</sup>/sとし、その内2,400m<sup>3</sup>/sを排水機場設置、河道改修等治水施設による対策、残りの300m<sup>3</sup>/sを

遊水地等流域対応施設で受け持たせている。さらに、ハード面からの整備を進めるとともに、保水・遊水機能の保全対策、水害に強い街づくりなど、ソフト面からの対策を合わせて進めている。計画降雨は、戦後最大実績降雨として、1957年の八尾の実績に基づいて、62.9mm/h、311.2mm/dayが用いられている。



寝屋川流域総合治水の流量配分(図)  
[大阪府ホームページより]



る。かつて淀川左岸中流部には8つの取水樋があったが、1950年に枚方合同樋門に統合され、それも1991年に廃止された。枚方市ではその水路を利用して、水面廻廊という散策路を整備している。

寝屋川市内では、淀川左岸幹線水路から何本もの派川水路が分かれ、農地を潤した後に寝屋川あるいは古川へ流れ込むが、その内の**二十箇水路**は寝屋川浄化導水路とほぼ並行して流れ、桜木ポンプ場の近くで**友呂岐水路**に合流する。その合流点は2014年度寝屋川再生ワークショップの整備拠点に選ばれ、**水辺ひろば**が誕生した。友呂岐水路はそこから寝屋川本川に並行して南流し、萱島で寝屋川本川に合流するが、水路沿いは友呂岐緑地として市民の憩いの場になっている。

木屋には**寝屋川市香里浄水場**の取水口がある。また枚方市、寝屋川市、守口市に接する淀川の河川敷は**国営淀川河川公園**になっており、多くの利用者が賑わっている。特に枚方地区には、淀川河川事務所、淀川資料館、中央流域センター、淀川左岸水防事務所などが集中している。

出口地区には、全国で最初のスーパー堤防が建設された。太間地区の堤内には、仁徳時代に築かれた**茨田堤**や**赤井堤防跡**の碑が立っており、**太間天満宮**の境内には**衫子絶間跡の石碑**がある。それによれば、仁徳天皇の時代に茨田堤を築造しようとしたところ2か所の難所があって、武蔵国の強頸と茨田連衫子が人柱に指名され、強頸は犠牲になったが、衫子は流れに投じた瓢箪が沈めば応じると言って、いけにえになるのを逃れたとのことである。点野地区の堤内には、**茨田樋跡の石碑**があり、それを囲んで**茨田樋遺跡水辺公園**が整備されている。この公園の整備は2005年頃から寝屋川再生ワークショップで取り組まれたものであ



木屋揚水機場



二十箇水路・友呂岐水路の合流点



国営淀川河川公園枚方地区



衫子絶間跡の石碑



茨田樋遺跡水辺公園



点野防災船着場



点野砂州・ワンド

るが、ちょうどその頃になされた点野スーパー堤防整備と連動して、淀川河川公園との相互アクセスが容易になった。淀川新橋の左岸上流側堤内には太間サービスセンター、下流側堤内には点野流域センターがあり、一般の利用者や河川レンジャーの活動拠点になっている。

また、淀川新橋左岸直下流の低水護岸は一部切り下げて、防災船着場となっている。さらにその下流には**点野砂州**、**点野ワンド**が続き、淀川左岸中流域の貴重な自然空間となっている。この砂州では毎年夏休みの1日を用いて、淀川まるごと体験会が催されている。点野小学校では、総合学習の一環として、年に一度淀川河川敷で半日授業が実施されている。このように点野地区は淀川河川公園全体の中でも特に住民参加による保全利用活動が活発な地区として注目されている。

## コラム② 寝屋川の水利用

寝屋川本川上流部では平常時の流量が少なく、中流部における平常流量のほとんどは枚方市にあるなぎさ水みらいセンターからの放流水で約2m<sup>3</sup>/sである。淀川の水量が多い時には、寝屋川浄化導水路から淀川の水が最大10m<sup>3</sup>/s供給されるが、この水量は水辺に親しむには多過ぎて危険である。

一方、木屋ポンプ場からは農業用水を最大7.7m<sup>3</sup>/s取水できる水利権が設定されているが、実際の取水量は灌漑期で6.7m<sup>3</sup>/s、非灌漑期で3.3m<sup>3</sup>/sとなっている。この水量が淀川左岸域の水路および農地を潤しているが、夜間はポンプが停止し、さらに週に1日は終日ポンプが停止する。このため、市内水路では夏期の昼間には十分な水量が流れているが、冬期や夜間には水が涸れ、生物の生き残りにっては問題がある。

淀川左岸の農業用水の管理はかつては淀川左岸土地改良区でなされていたが、農

地の減少に伴って淀川左岸用排水管理組合に移行し、さらにその組合も解散して、現在では流域市の管理に移行している。農地面積や農家戸数の減少している現在、農業用としての水の需要は減っていても、地域の環境用水としての需要に変わりはなく、今後これを維持していくには、行政と農家だけでなく、一般住民や企業の参加が求められよう。



淀川左岸幹線水路とEボート



### 3 寝屋川中流・下流ゾーン

桜木町で向きを南に変えた寝屋川は、コンクリートブロックの高水護岸と鋼矢板の低水護岸に囲まれた人工水路と化し、約1km南で京阪寝屋川市駅前を通過するが、ここでわずか200mの間ではあるが様相が一変し、親水性に富んだ**寝屋川せせらぎ公園**が出現する。これは、寝屋川市が市制50周年を迎えた2001年に始まった寝屋川再生プランワークショップの議論を経て整備された最初の箇所、2005年に完成したものである。

駅前の河岸を約3m後退させて川幅を広げ、スロープや階段をつけて降りやすくするとともに、犬走りを広げてウッドデッキやせせらぎ水路を設け、植栽やベンチさらにはワンドや船着場、潜水橋の設置もなされている。鋼矢板の低水護岸前面には、空石積の自然石が並べられている。せせらぎ水路へは本川の水がポンプアップされているが、その電源には駅前のロータリーに設置された風車



寝屋川せせらぎ公園



せせらぎ公園内元気みなと



非常用浮環



にぎわい創造館



田舟のレプリカ



友呂岐悪水井路橋上の建物



住吉神社



古川浄化導水路放流口(右)と古川

と太陽光パネルで発電された電力が用いられている。夜間には足元のライトアップもなされている。

この場所の普段の流量は約1.5m<sup>3</sup>/sで、水深約50cm、流速約30cm/sと親水性に富んでいるが、淀川からの浄化用水の流下時や雨天時には流量・水深・流速が増し、危険となる。そこで、河岸には危険を報せるための警報装置(回転灯とスピーカー)が設置されている。また、公園区域の下流端には、非常時に備えて浮環が浮かべられている。

せせらぎ公園の西側には**寝屋川市立産業振興センター(にぎわい創造館)**があり、その4階に摂南大学地域連携センターの駅前活動ルームがある。この建物では、2001年以来、寝屋川再生ワークショップやねや川水辺クラブの会議がたびたび開かれ、市役所とともに寝屋川再生の拠点となっている。センターの南側の橋から西側の商店街に入るとすぐに寝屋川と並行して流れる友呂岐水路があるが、その水路沿いに南に降りると、田舟のレプリカが置かれている。これは三枚板舟と呼ばれ、往時、物資の輸送に使われたものである。そこから上流を望むと、水路を跨ぐ**友呂岐悪水井路橋**の上に商店街の店が建ち並んでいるのが目に入る。わが国では通常橋の上には建物を建てないが、イタリアフィレンツェのベッキオ橋を想い起こさせるめずらしい光景である。

寝屋川市駅の南東側には**住吉神社**(ねや川戎)があり、1月9日から3日間は祭で賑わう。

寝屋川市駅前を過ぎると寝屋川はしだいに深さを増し、清水町で**古川**への浄化用水を分派する。古川は水源に山地を持たない平地河川で、ふだんの水源は**淀川左岸幹線水路**から分派した淀川の水である。しかし、農地や市街地を流れる間に



水質が悪化し、農地や市街地を經由せずに寝屋川本川を流れる淀川の水で浄化しているのである。

古川の上流部には**寝屋川第3水路**や**第4水路**などの農業水路が合流するが、それらが脇を流れる池田小学校、桜小学校、第2中学校、**摂南大学**などでは、水路と接続したピオトープ整備がなされている。また、廃校跡の池の里市民交流センターには自然体験学習室が設けられ、子供達の実験学習の拠点となっている。

寝屋川と古川の間にある神田地区には、風情のある田園風景がわずかながら残っている。その東側の対岸にあたる木田地区にも遊歩道の整備された水路が残っている。木田地区の西端には京阪電車の車両基地である寝屋川車庫があり、その南にある萱島駅のガードをくぐると、寝屋川は向き



摂南大学ピオトープ



なわて水みらいセンターとせせらぎ水路



寝屋川北部地下河川  
(大阪府ホームページより)



寝屋川治水緑地



御領水路



観音浜



野崎観音

を南東に変え、<sup>なんすいえん</sup>南水苑町で友呂岐水路を合流する。

この付近ではさらに**寝屋川第10水路**をはじめとする多くの市内水路とともに、四条畷市の清滝峠に源を発する讃良川と、府民の森・緑の文化園、むろいけ園地に源を発する岡部川が寝屋川に合流する。その合流点付近には、南寝屋川公園や**なわて水みらいセンター**があり、芝生広場、処理水の流れるせせらぎ水路などが整備されている。

寝屋川本川はその後しばらく門真市との境界を流れ、大東市に入るが、このあたりからは感潮区間となる。また、かつての地盤沈下の影響も重なって、きわめて排水の悪い地域であり、数々の排水機場が設けられるとともに、**萱島調整池**、**寝屋川北部地下河川**などの洪水防御施設が建設されている。寝屋川市と大東市の境界付近の左岸側には**寝屋川治水緑地**(深北緑地)が設けられている。この治水緑地は寝屋川流域最大のもので3つのゾーンからなり、総面積50.3ha、貯水容量146万m<sup>3</sup>に及んでいる。治水緑地のすぐ下流では、四条畷市から流れてくる**権現川**が合流する。

大東市北西部の**御領水路**では、下水処理水を利用して、井路風景が保存されている。住道のすぐ上流で合流してくる**鍋田川**には**谷田川**という支川があり、野崎まいりで有名な**観音浜**がある。ここは**野崎観音**(**慈眼寺**)への上り口で、JR学研都市線野崎駅がある。1972年の大東水害はこのすぐ上流で生じた。

このあたりの往時の寝屋川には、<sup>ふくの</sup>深野池という大きな池があり、大阪からは野崎参りの屋形船が行き来していた。野崎観音の本堂横のお堂には江口の君が祀られているが、平安末期の頃、江口の君が7昼夜籠って祈るとたちまち難病が治り、感謝

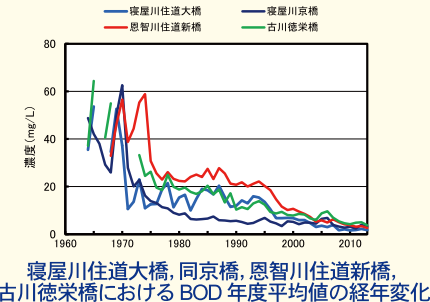
### コラム③ 寝屋川の水質

寝屋川流域では、1950年代後半からの都市化により、水質が大きく悪化した。そのため、下水道の整備や、淀川からの導水などに取組み、1994年には清流ルネッサンス計画、2014年には清流ルネッサンスII計画が推進され、水質は大きく改善されたが、さらなる水環境の改善を図るため、2012年に寝屋川流域水環境改善計画が策定されている。

計画期間は2021年度までの10年間で、寝屋川流域内河川及び水路が対象となっている。全体の目標像は「人とつながりを育み、誰もが愛着を持てる川」とされており、上流域では「水に入って生き物と触れ合える川」、中流域では「暮らしの中に憩いやくつろぎを与える川」、下流域では「街なかのオープンスペースとしてゆとりが感じられる川」が目標像とされている。

目標水質は、上中流域でBOD3.0mg/L以下、下流域で5.0mg/L以下とされており、ほぼ達成している。

主な施策項目としては、水量の安定的な確保、水質汚濁の原因となる負荷の削減・発生源の対策、河道内のごみの削減、川に対する愛着を深める仕掛けづくり、企業の行動の促進が掲げられている。



のために堂を寄進したものである。境内には、お染・久松の供養塔もある。

寝屋川は、住道で南から流れてくる恩智川と合流して向きを西に変えるが、このあたりから下流の寝屋川にはもはや犬走りはなく、上まで直立の鋼管杭で囲まれた濠状となる。大東市を過ぎると、寝屋川は東大阪市鴻池を経て大阪市鶴見区に入るが、その境界付近に**鴻池水みらいセンター**がある。鴻池水みらいセンターの東側上部空間はスカイランドと呼ばれ、バラ園、運動広場、散策路などが整備されている。また、近畿自動車道を挟んだ西側には芝生広場とせせらぎ水路が整備されている。

その下流で、門真市から流れてくる古川が合流するが、古川の上流部にあたる門真市内大和田の**堤根神社**には、茨田堤の遺構が残っている。また、農業水路の一部には、**バツリ**という舟超場も残されている。門真市内には**弁天池**や農業水路など多くの水辺が残っているが、**砂子水路(下八箇荘水路の一部)**の桜は大阪府緑の百選に登録されている。周辺には多くのレンコン畑も残っており、砂子水路では桜の季節に田舟を利用したイベントも行われている。

守口市と大阪市鶴見区の境には、**花博記念公園鶴見緑地**が広がっている。鶴見区の東部一帯には**次田**の地名が残っている。守口市と鶴見区の中央部にはかつて**西三荘水路**が流れていたが、現在は上部が遊歩道になっている。西三荘とは門真荘(門真市)、九箇荘(寝屋川市)、五箇荘(守口市)の3つの荘園の西を意味している。

徳庵で古川を合流した寝屋川は、大阪市城東区で左岸から平野川分水路、右岸から**城北川**を合流する。城北川は都島区を流れる大川の毛馬



住道付近の鋼管杭護岸



鴻池水みらいセンター屋上のスカイランド



堤根神社の茨田堤遺構



バツリ



城北川フェスティバル



城北ワンド群



寝屋川・大川の合流点

桜ノ宮公園から旭区を経て、城東区で寝屋川につながる運河で、1935年から1940年にかけて掘削された。そのため、城北運河とも呼ばれている。かつては水質の汚染が激しかったが、現在では水門を用いた水質改善が進められ、城東区内の河川では最も水質が良く、川沿いには散歩道が設けられ、春には花見の名所としても親しまれている。

旭区内の淀川左岸堤内には**城北公園**があり、河川敷には**城北ワンド群**が連なっている。その上流の守口市庭窪地区には守口市、大阪市、大阪広域水道企業団の浄水場があり、その取水口が並んでいる。また、その直下流には**庭窪ワンド**が続いている。

城東区を通過した後の寝屋川は、都島区と中央区の境を流れ、大阪城の北で**第二寝屋川**を合流して**大川**に流出する。

## コラム④ 寝屋川の市民活動

寝屋川の市民活動としては、2001年に寝屋川市の市制50周年を機に始まった寝屋川再生ワークショップが特筆されよう。このワークショップは現在に至るまで継続されており、河川清掃や生物調査にとどまらず、寝屋川本川沿いの3カ所に及ぶ親水整備や市内水路における市民工事への参画など、数々の成果を挙げている。また、主催者のワークショップと並行して、ねや川水辺クラブという市民組織が設立され、市民と行政の協働による水環境改善の核となっている。

門真市においては企業を中心とする門真エコネットワーク連絡会が形成され、積極的な環境活動が展開されている。

2003年には寝屋川流域全体をつなぐ市民組織として寝屋川流域ネットワークが設立され、流域内の各地を巡回しながら、毎年寝

屋川流域懇談会を開催し、情報交換とフィールドワークを組み合わせ、行政との協働による水環境改善に取り組んでいる。そのフィールドワークにおいて活用されているツールにEポートがある。これは10人乗りの手漕ぎカヌーで、摂南大学の学生が中心となって運営されており、環境保全活動への若手の参画として注目されている。



市民参加による河川改修ワークショップ